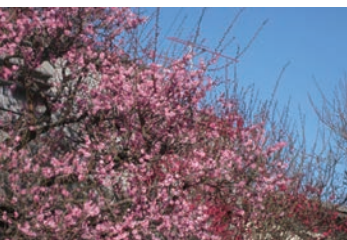


先日、クローバープラザで「福祉の仕事就職面談会」が開催され、小さなたねから私が行ってきました。開催者がアナウンスで「求職者が怖がるような呼び込みや過度の誘いはしないで下さい」と注意を促さなければならぬほど、各事業所の呼び込みは白熱しています。数人がかりで笑顔を絶やさずソフトに（相手を怖がらせないよう）自分たちのブースへ誘って行きます。そして、お茶や飴を振舞って出迎える担当者たち。一人で行った私はそんな光景に圧倒されながら、目の前を通り過ぎていく求職者たちを見つめるだけでした。

事業者による熱心な呼び込みや、過剰とも思えるサービスの背景には、福祉・介護における人材不足の深刻さを思わせられる一方で、その様子に何とも言えぬ違和感を感じました（以下、誰も来ないブースで、ひがんでいる中年のおっさんのつぶやきかな……）。

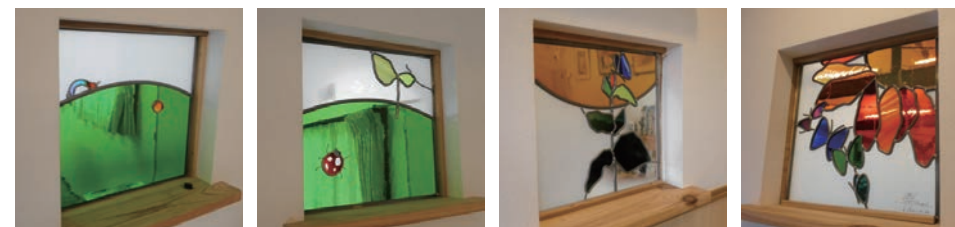


満開の梅の花

面談終了の十数分前に、一人の女性が「お話し、いいですか?」と現れました。某障がい者施設から転職を考えているとのこと。話し始めると、ついつい仕事内容というより、重い障がいのある方たちの暮らしや活動内容へ。目を潤ませながら聴いてくれた彼女に会えて、今日は無駄じゃなかったと自己満足して帰るのでした。

福祉の仕事って？

所長 水野 英尚



小さなたねの物語が描かれたステンドグラス（ガラスアート TAKAMI 製作・寄贈）

たねスタッフのつぶやき

寒さ厳しいこの時期、冷え性の私は湯たんぽが欠かせない。娘がいた頃は緊張が強い娘の身体力が抜けるように、横向きにし、後ろから抱きかかえるように寝ていたので、筋緊張で熱を発していた娘から温もりと安らぎをもたらしていたのだと後になって気づいた。娘に与えていたようで、実はそれ以上のものをもらっていたのだと、今頃になつてつくづく身に染みて感じる事柄の一つである。

娘亡き今、今夜もせつせと湯たんぽにお湯を注ぐ。最近では湯たんぽも進化し、15分間充電すれば4時間程度は暖かいという優れものもある。

良い睡眠は免疫力、抵抗力アップに不可欠。手足が冷たい利用者さんも多いので、対策グッズを上手に活用して厳しい冬を乗り越えたい。

（羽原）



医療法人にのさかクリニック

地域生活ケアセンター 小さなたね

〒814-0172 福岡市早良区梅林6-23-3

電話 092-874-3051 FAX 092-874-3052

E-mail: chisanatanetane@tune.ocn.jp

ブログ: <http://chisanatanetane.blog.ocn.ne.jp/blog/>

後記

小3の娘が「ママー、背中掻いてー」とやってきた。私のガサガサと荒れた手で掻かれると、ちょうど気持ちいいのだという。そういえば中1の息子（重心）も、私が肌を直接さすると気持ち良さそうにする。あれは手の温もりがいいわけではなかったのか…。ハンドクリームをすりこみながら、ふと思う。料理上手のママや、夜なべして手袋編むような母さんにはなれそうにないが、ガサガサの手が心地いい記憶として残ってくれるなら、まあそれもいいかな。（E）

未来と希望の種時き

「福岡市保健福祉総合計画」の骨子が急ピッチでまとめられようとしています。5年ごとに立てられ、来年度（平成28年度）が新計画のスタートとなります。私は障がい福祉の専門分科会の委員の一人ですが、先日、本計画案について議論が交わされました。福岡市の福祉のまちづくりの基本となる計画だけに、保健・医療・福祉等の様々な分野が網羅されており、読み込むだけで一苦労します。その中に「福岡市がめざす10年後の目標像」があります。

①生涯現役社会

市民がそれぞれのライフステージに応じた健康づくりや生活習慣の改善を実践し、社会全体で健康で意欲を持ちながら地域社会で活躍しています。

②「地域の力」と「民間の力」が引き出される社会

地域課題を地域の誰もが共有し、解決に向けて互いに助け合っており、また、民間企業などもそれぞれの特色を活かし、市民生活を支える存在として積極的に社会貢献を行っています。

③福祉におけるアジアのモデルとなる社会

高齢者や障がいのある人をはじめ、支援が必要な誰もが安心して地域で暮らし、いける社会づくりをすすめ、今後高齢化を迎えるアジアの国々のモデルとなっています。これらの目標に向け、取り組むべき政策や市民一人ひとりの意識の「転換」が必要だと伝えられています。

65歳以上の人たちが増え、「現役世代」と呼ばれるそれ以下の人たちが少なくなっていく中で、これからの暮らしをどのようにイメージしていくのか、本当に重要な計画だと思われています。中でも「地域の力」「民間の力」をどう創り出していくのかは、未来を夢あるものにしていく重要なキーワードになっていくことでしょう。

そして、地域をより具体的にしつつ、もはや行政任せや行政頼みにしないあり方、自分たちの暮らしは自分たちで考え、創り出していくといった、各々の自治組織の再編や、リーダーを育成していかなければならないと思います。まず、地域に住む一人ひとりの意識を高めてい



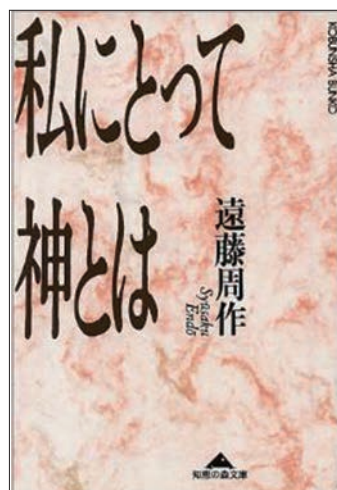
本の紹介

『私にとって神とは』

遠藤周作 著

（光文社文庫、本体438円＋税）

イスラム国、による蛮行が繰り返される中で、「神なんて信じているから争いが絶えないのではないか?」「宗教は怖い、との声を聞きます。日本人とキリスト教の課題に真摯に向き合い続けた著者の、「神とは?」の問いに誠実に応える姿は、宗教を超えるヒントを与えてくれます。



『星の王子さま』

サン＝テグジュペリ 著

河野万里子 訳

（新潮文庫、本体476円＋税）

目に見えることよりも、見えない事柄の方が真実に近い。現代人が失いかけているものを、気づかせてくれる不朽の名作です。

大人も子どもも一緒に、サン＝テグジュペリノの世界に引き込まれてみてはどうでしょうか。



一人ひとりに寄り添う

東島明子（医療保育専門士）

私は63歳の保育士です。

長年勤めた子どもに関わる仕事を定年で退いたのですが、やっぱり子どもに関わりたいとの思いから、昨年より週に2日だけ新たな職に就いています。そこは、いつも暖かな光が差し込む穏やかな空間「小さなたね」です。

そこには、全身で語りかけてくる（幼児から成人までの）彼らがいます。そしてそこは、少しも気が抜けないところです。一人ひとりの表情や顔色や息づかいから様々なことを感じ取り、対応しなければならないところです。

じっくりと時間をかけて彼らのそばにいと、今まで見えていなかったことが見えてきます。私にとって彼らのそばにいて触れ合い、寄り添うこの時間は、彼らに今何が 필요한のか、どのような関わりをしたらいいのかを考え、教えられる、学びの時間です。

また、意思を伝えられない小さい子どもには、その子の思いをくみ取り十分に安心できる対応が必要です。純真に見つめてくるその子のまなざしに応えられるよう、これからも真摯に彼らと向かい合いたいと思っています。

人は歳を重ねても、発達することが大事だと言われています。私はこれからも彼らと共に少しずつ発達していきたいと思っています。



く必要があります。各公民館で開催されている講演会等もその一つでしょう。あるいは、にのさがクリニックで続けられている「健康教室」や地域イベント等も一翼を担っており、地域の土壌が豊かに耕され、種まきがなされてきているのだと感じています。そして、そういった中で、あるべき目標の設定や共有がなされたら、ムーブメントは起こされると私は考えます。その「共有」のテーマにいかに関わり添っていくのが重要です。

これまで、*「がん」*のテーマは癌患者とその家族の課題であり、障がい者の課題は当事者や家族の課題、あるいは子育ての悩みは若い夫婦の課題というように、それぞれが自分の課題に向き合う中で、共通のテーマを分かち合いサークルを結成してきたと思います。確かにそうした取り組みは必用不可欠です。しかし、そこでの出会いや気づきを転換し、これまで自分には関係が無いとしていた別のサークルや出会いに繋げていくことによって、一つの課題についてなされた経験や取り組みが、実は全く別の課題を持つ人々の暮らしに必要な知識と力となることができる。そのようなテーマの転換と繋ぐ働きの積み重ねによって、老いた者、若者も子どもも、障がいある者



も病める者も、その一人ひとりの暮らしを形成していくための知恵となり、力となっていくのだと思います。

そして、一人ひとりの価値の転換もまた必要です。自分自身のこと、あるいはその家族のことだけで完結せず、隣近所や向こう隣りの誰それの暮らしに目を向けること。そういった関心と配慮が繋がって、帯となって一つのコミュニティを形成していく。それこそが「いのちを受けとめる町」の原型なのではないでしょうか。

それは誰かにより準備されるのでも、押し付けられて出来るのでも、自然に成り行きで出来る上がることでもありません。まさに「自分たちの暮らしをどうするのか」という、その自主性が要求されます。互いにアイデアを出し合い、自助（セルフケア）・互助（ボランティア活動）・共助（社会保険制度）・公助（生活保護・人権擁護・社会福祉）のバランスを見つめ直し、新たなシステムをつくり出すムーブメントこそが、「いのちを受けとめる町づくりプロジェクト」だと言えます。

今、まさにそれを始める「時」に差し掛かっていると感じています。大きな事柄でなく、目の前の小さな出会いと出来事の中から、共に考えていただける仲間を求めています。どうぞ、よろしく願います。



小さなたねの アイルランドの風コンサート

たね
日記



今年も守安さんご夫妻のユーモアあふれるトークと、
さわやかな音色に満ちたコンサートを満喫しました!!
来年もまた再会の約束をして下さいました。
乞うご期待!!



まもなく始動!

相談支援センター小さなたね

平成27年3月末より、障がい福祉サービス利用するすべての利用者に対して、サービス等利用計画（または障害児支援利用計画）を作成することが必須となっています。

これまで、「小さなたねで作成してもらえないんですか？」などと言われる方もいらっしゃいましたが、いよいよ今年4月の指定申請に向けて準備を進めています。

これらの支援は、当事者の解決すべき課題に向け、支援方針を打ち出し、利用するサービスを組み合わせることで、トータルプランを設計していく重要な支援だと考えています。

ノーマライゼーションとアドボカシー（権利擁護）を柱とした支援を心掛けていきたいと思っています。



今年も、鬼は外!